

# ICHI no UNCHIKU

## 杜の里の春 ～そして何処へ～

昨年4月に山側環状が全線開通し、今年4月には杜の里小学校が新設開校された。このことは金沢大学総合移転に伴う大学門前街づくりを目的に始まった杜の里の街づくりの第一期事業が完了したことを意味している。



【杜の里小学校】

20年の歳月を要した。いや金沢

大学の総合移転構想が提起されてから30年に至ろうとしている。山側環状の全線開通にあたっては、杜の里の桜祭り「夜桜遊歩 in 杜の里」というイベントのなかで、金沢河川国道事務所等と連携し、「山側環状ウォークラリー」を開催した。

一方、杜の里小学校の敷地は土地区画整理事業の保留地であり、事業の解散に間に合わなかったものの、つい先日多くの方々が参列し開校式が催された。若松・鈴見地区は従来材木小学校と田上小学校に別れていただけに杜の里に通学区域を統合しコミュニティを一元化するという難問をもクリアできただけに喜びもひとしおである。

さて、杜の里はいま春爛漫である。杜の里の春にふれてみよう。いまは満開だった桜も散り、ぼちぼちツツジ類が咲きだす。小生にとって季節が移り変わる春夏秋冬のなかで最も好きな季節は春である。冬と言えば長く雪に閉じこめられていたことから、子ども心には春の訪れが特別なものだったような気がする。早春の花といえば、黄色い花々から始まる。マンサク、サンシュユ、レンギョウなどである。ついで、コブシ、ユキヤナギ、ソメイヨシノが咲く。特に浅野川沿いの遊歩道「医王の道」の桜並木は寿命の短いソメイヨシノが最も活力のある時期であろうか。

浅野川の流れ、遠くに霞む医王山や白山連峰の眺め、遊歩道の満開の桜などがあいまって、多くの市民が訪れる。特にここ3～4年は河原や公園で花見宴会が多くなってきたようで、学生達のにぎわいも喧噪化しつつある。むろん学生達ばかりではなく、会社のグループとか、家族も多く見られるようになってきた。結・構、結・構。これから5月連休になるとオオムラサキやヒラドツツジ、ハナミズキ、ヤマボウシ、サツキなどが咲き始め、ケヤキなどの新緑も一層鮮やかになるであろう。5月下旬～6月にかけてはキンシバイ、アジサイも咲きだす。この遊歩道沿いだけでも季節の移り変わりをおおいに堪能できる。ガラにもなく、えらく感傷的になってしまった。



【医王の道】

話を変えよう。ポチポチ5月連休が近づいてきた。今年はどうでしょうか。こ

こ4～5年は城郭探訪の旅をしている。伊勢亀山から南紀新宮、和歌山あたりはどうか。いやー南紀ならば何と言っても「熊野古道」に憧れる。野宿がいい。中辺路・大辺路、雲取越、伊勢路と新宮城を組み合わせれば良い。どうあっても一度は歩きたいと思っている。いやー四国もいいかもしれない。淡路洲本、徳島、高知、宇和島、大洲、今治、松山、高松には近世城郭が多く遺っている。しかし、これだと四国八十八カ所巡りにもなるかもしれない。昨年9月だったと思うがNHK教育テレビで、「趣味悠々 四国八十八カ所・はじめてのお遍路」と題して13回にわたって放送していた。また11月からNHK総合テレビでこのお遍路のドラマを放映していた。たしか、「ウォーカーズ 迷子の大人達」(全4回)だったと記憶している。江口洋介、三浦友和、原田芳雄などの芸達者が出演していた。このテレビをみてから俄然このお遍路に興味を持つようになった。むろん小生は信心深いわけではないから城郭紀行を兼ねての旅という程度の軽い気持ちで行きたい。むろん歩き遍路で。さーて、今晚は地図を眺めて楽しむか。暖かくなってくると、いつもの放浪癖がでてくるようだ……。



【浅野川での宴】

by 市村 銃冶



2007/05

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

↑バックナンバーはこちらから。  
年に一度の更新です。

〒920-1166

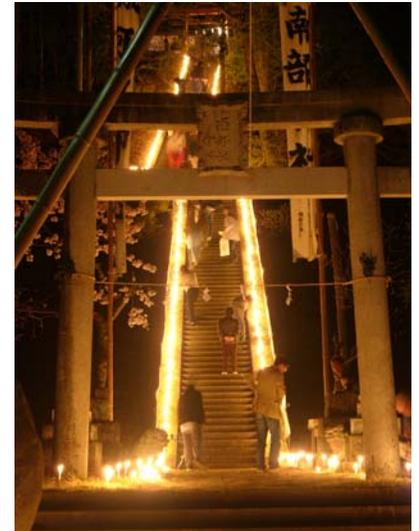
石川県金沢市上若松町23番地

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

# 泉 月



長岡市栲尾森上南部神社 by shio

2007/05  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

能登半島地震により、被害を受けられた皆様には心からお見舞い申し上げます。輪島の馬場崎とはかれこれ10年以上おつきあいさせていただいており、震源地が輪島に近いと聞いたときはとても驚きました。

震災後輪島を訪れたとき、お世話になっている方々の元氣な姿を見ることができほっとしましたが、倒壊した家々の多さに災害の大きさを改めて感じました。

災害ボランティアにも参加させていただきましたが、医療や建築、福祉、飲食業などの方々が、専門性を活かして被災者のお役に立っているのに対して、プランナーという職業の私はあまり役に立たず、とてももどかしく感じました。緊急の災害対策が終わっても、経済的なダメージは長期に続きます。輪島の建築家高木信治さんとお話した際に、「輪島という特色あるまちがより輝くように、未来を見据えた復興計画が大切だ」と力強くおっしゃられたのが印象的でした。震災後、建物調査や修繕計画に追われ不眠不休の状態にもかかわらず、未来を考える姿勢に心を打たれました。

その時、以前読んだ『希望学』（玄田有史編著）という本を思い出しました。希望を科学的に捉えてみようという実験的なプロジェクトの途中経過を綴ったものでしたが、社会と希望の関係に着目しているところが興味深い点です。読んでいて気付いたのは希望を持つということ、計画をつくるという作業がかなり近いものではないかということです。本の中で、希望の類型化について触れている一節があり、一つの切り口として、希望することが何らかの行動を生み出すものであるか、それとも一切行動を伴わないかと

いう区分があると指摘しています。計画にも同様の側面があり、具体的なアクションが全くイメージできない計画と、すぐにも取りかかりたくなくなる計画があります。今後、被災地で求められる復興計画は、いうまでもなくアクションに結びつくプラン、それは達成に向けて力を合わせて取り組むことができる「希望」と言い換えることができるのではないのでしょうか。

同書に興味深いデータが載っていました。子供の頃の就職希望はほとんどの場合実現困難であるが、やりがいのある仕事に就ける確率は、具体的な職業希望を持っていた人のほうが、そうでない人に比べて高いという調査結果です。これは、当初の希望が叶わなかったとしても、希望の修正を行うことや、挫折を乗り越えることで、やりがいや生きがいに出会いやすいついことだと考えられます。

そうであれば、個人レベルでも社会レベルでも、希望を計画するということが、元々の希望が達成されなかったとしても、幸福感を得ることができるといふ可能性を広げる力を持っているのかもしれない。しかしそれは、どんな計画でもいいというものではなさそうです。その計画に人々を行動に駆り立てる力が備わっていないと未来の幸福には結びつかないはず

です。プランナーとして自分ができること——困難かもしれませんが、みんなが希望をもてる計画をつくるお手伝いではないかと思っています。



【プロフィール】

昭和45年 富山県小矢部市生まれ  
平成6年 株式会社計画情報研究所 入社現在に至る  
平成11年 金沢大学大学院

## 濱のつばき 『頭脳明晰の失』

失。矢の間違いではない。

良し悪しは何事にも付きまとう。しかし、「頭」に関して、今日では特別な意味を持つように感じている。

「頭がよい」とは、本心に良いことなのであるうか。永年、疑問であった。「知に働けば角が立つ。情に棹差せば流される...」名文にしくはない。

日経ビジネスの記事であったので、あるいはご記憶の方も居られるかもしれない。米国経営者の言葉「ビジネス社会には、頭の良い人が二人居る。競争相手とお客さんだ。」

普通、ライバルは疎んじてすれ、教えの対象とは思えない。水泳の金メダリスト鈴木大地にも、「優れたライバルのいないトップアスリートは不幸だ」という一言がある。ライバルを尊び、自らを高みに上げてくれる存在と芯から思うことは容易でない。論敵にもそう思えるか。重要な、自らへの問いかけである。

最近、新しく縁ができて顧客となって頂いた方から、多くのことを学ばせていただく機会があった。自分たちが特長だと思っていたことよりも、別な角度から利点を指摘していただいた。お客さんに学ばせて頂くことは実に難しい事である。

問題は、顧客から学ぶ際、殆どの場合にはクレーム

の形を取ることである。クレームは宝の山とは言っても、実際に耳に痛い指摘を受けて、口先や頭だけの理解ではなく、真から顧客に学ぶ姿勢をとれるものではない。普段は、顧客第一と言いつつ、いざその場となると蓋をしたくなるのが人情であらう。

顧客から学ばせていただく姿勢は中々芯から身に付くものではない。

ところで、その肝心の顧客がはつきりしない業態が意外に多いことも知った。学ぶべき相手が居ない。恐ろしい業界ではないか。また顧客を客とも思っていない企業もかなり多い。平時はそれでも慣性の法則で客がついているが、一朝事が発生したとき、本質がバレて経営危機に陥る。

このような企業や業界に、万一優れたライバルが居なければ、その企業や業界は余程自律して向上心にひた向かなければ発展は望めないことになる。ほんやりと日々稼げていたとしても、変化の激しい今日、いつまで安穩が続くのか。

自らの頭よさを競い・誇るより、自らは頭を低くして、顧客やライバルの頭よさに学ぶ姿勢は商人道にもつながる。

「頭が良い」ことは不幸であるかもしれない。往々にして「頭のよさ」に酔い、計算を以って全てと見がちである。が、人はそれだけでは動かない。

情けにだけ頼ると流されやすい。「頭がよい」このことの真の意味を今一度、深く考え直し、何を以って宗とすべきか見極めてみたいと思う。

## 『 新人育成 』

(株)アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

新人営業マンを一人前にするという仕事を最近やり始めている。皆さんは、新人を受け入れたとき最初に何から手をつけますか？ 会社の規則や仕事のやり方を教えることは当然だが、その前に僕は新人からある事を聞くようにしている。

さて、それは何でしょう？皆さんは以下の3つの中で聞かならば何をメインに聞きますか？

- ① 入社動機を聞く
- ② 将来の夢を聞く
- ③ 過去の喜怒哀楽のエピソードを聞く



僕のがやっている事が正解というわけではもちろんないのだが、僕は③の過去の喜怒哀楽を聞くようにしている。①は大事なことなのだが、本心が聞けない場合がある。本音を言うと第一志望の企業に入社できなかったからという場合もあり、面と向かって最初から本音を言ってくれない場合が多い。

将来の夢を聞く②は、一見良さそうなのだが、全ての新人が確固たる夢を持っているわけではない。それなりの夢語ってはくれるのだが、そこに意志を感じる事が余りない。逆に強い意志を込めた夢を持っている新人ならば、これは将来楽しみな存在となる。

③の過去の喜怒哀楽には、その人そのものが凝縮されている。「ところで、ガキのころはどんなだったの？今まで一番悔しい思いをしたのはどんな時だった？あの時は楽しかった、もう一回あんな思いを味わいたいという思い出ってある？」と聞いていく。過去の挫折体験や成功体験を聞き出すことで、その人がどんな人間なのか分かる。例えば挫折体験。大事なことは、その体験の前はどんなだったのか。そして何があったから挫折から立ち上がることができたのかということだ。ポイントは学生時代だけではなく、小学校や中学校、高校といった昔の話聞くことだ。思春期前後の体験の方が、現在の人格に及ぼす影響力が大きいからだ。立ち上がるまでにどれくらい期間がかかったのか。自分ひとりで立ち上がったのか、それとも誰かの助けを得て立ち上がったのか？助けてくれた人は誰だったのか。それは1人だったのか複数だったのか。具体的にどんな助けを得たのか。振り返ってみて、その体験は自分にとってどんな意味を持っているのか。失敗体験から何を学んだのか、それとも何も学んでいないのかを把握する。

このエピソードを基に、メンタル面のタフさを把握する。叱り飛ばしていい新人なのか、それとも誉めて育てた方がいい新人なのか。辛い思い出を前向きに捉え直すことができるようなら、タフな新人と判断する。

こういった体験は、しゃべっている本人も忘れかけた出来事の場合が多い。だから話しながら思い出していくという感じになる。そして不思議なことに、話すに連れて大半の新人が元気になっていく。人間は過去の体験を思い出し、自分の中で整理できると、エネルギーを充填できる生き物のようだ。

一度お試しあれ。

## 『 温泉への誘い(50) 最近のニュース 』

著者ご本人のご希望により、インターネット版ではご覧いただけません。

## 『 まさに厳しい台所事情 』

ナチュラルコンサルタント (株)

第1都市計画部 木内 誠

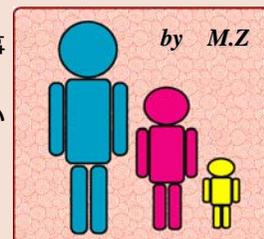
今秋、我が家に第3子が誕生する。精神的にも経済的にも余裕がある訳ではないが、たくさんの子らに囲まれて賑やかに、笑顔で暮らしたら後悔はない。

先春、父が定年退職となったので、育児面で頼ることができるのは幸いである。小生も3人兄弟であった。父は転勤族で仕事一筋、頼り所のない母の苦労は今になって理解できる。余裕のなさから墮胎もしたと聞いている。苦渋の決断であったろう。昨今では、少子化対策の流れから、児童手当の拡充、プレミアムパスポート事業など経済面での育児支援は格段に向上している。

育児休業法、次世代法など制定されて久しい。だが、諸法が現実的に機能しているとは考え難い。男女雇用均等法以降、女性の社会進出が進んだ一方、男性の比重は仕事の域を越えていない。女性は仕事に育児と負担は増えるばかり。少子化に歯止めが掛からないのは当たり前である。まずは、社会的男性の価値＝職業的評価とする慣習の刷新が必要であろう。

無論、容易なことではないし、誰かが改善してくれるものでもない。価値観の違いもあろう。だが、どこかで改善しなければいけないことには違いない。小生と同世代の父親らが背負う大きな課題ではないだろうか。公 共施設等では多目的、バリアフリー、ユニバーサルデザインへの導入は当たり前になった。だが、男性である小生が商業施設や公共施設で子どものおむつを変えようと思っても場所がないのが現実である。ベビールームなどは女性専用であったり、女性トイレと併設となっている施設が未だ多い。男女平等の育児体制の確立に向けて、ソフト的な改善もさながら、ハード的改善も不可欠といえる。

父から譲り受けた我が家は築25年を過ぎた。キッチンも対面式でない古い形式である。育児の大部分要素を占める台所事情は改善を余儀なくされている。豊かな精神を育み、笑顔で向かい合える家族生活をサポートしてくれるマイホームを計画中である。



# TAKI no TAWAGOTO

## 【 聖響で音楽堂が大盛況！ 】

4月21日の土曜日、石川県立音楽堂へアンサンブル金沢(OEK)の219回定期公演を聴きに行ったのですが、ホールに入った瞬間から音楽堂の雰囲気がいつもと違うことに気がきました。人が異常に多い。それも女性が！ しかも若い女性が多い！ なんなんだこれは・・・？ 下がこの日のコンサートのプログラムです。

- 1) ブラームス/大学祝典序曲 op. 80
- 2) ブラームス/ヴァイオリン協奏曲 二長調 op. 77
- 3) パツハ, J.S. / 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番 木長調～前奏曲
- 4) ブラームス/交響曲第1番ハ短調 op. 68

### 【演奏】

金聖響指揮オーケストラ・アンサンブル金沢  
(コンサート・マスター:サイモン・ブレンディス) \*1-2, 4  
シュロモ・ミンツ (ヴァイオリン\*2, 3)  
プレトーク: 金聖響

そうか、あの金聖響(キムセイキョウ)という人気若手指揮者と、テレビドラマ『のだめカンタービレ』で演奏されていた「ブラームス/交響曲第1番」通称(プラ1)聴きたさに、にわかクラシックファンと聖響の追っかけが大勢おしかけて来たのか。」と納得。いつもとは違う超満員の音楽堂でブラームスを堪能しました。これに限らず最近の(OEK)の定期公演のプログラムの充実ぶりには目を見張るものがあります。

●5月13日のフィリップ+下野竜也  
フィリップ・アントルモン(フランス・ピアノ界屈指の巨匠)  
下野竜也(金聖響と並び、今人気の若手指揮者)

●5月22日の庄司紗矢香+デイヴィット・スターン  
庄司紗矢香(第46回バガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールにコンクール史上最年少で優勝、今や世界中をまたにける人気ソリスト)  
デイヴィット・スターン(パリのオペラ・フーコの前首席指揮者:あのバイオリニスト、アイザック・スターンの息子)

地方オーケストラとしては信じられない超目玉プログラムの連続乱れ打ち状態であります。この贅沢なプログラムが席さえ選ばなければ僅か¥3,000でお気軽に聴きに行ける。今さらながら、岩城さんが残してくれたこのオーケストラの有り難さを楽しみ感じます。皆さんも今週末、来週末回りちょっと



## 明日裡空塾 76

### 第五十三章

使我介然有知。行於大道。唯施是畏。大道甚夷。而民好徑。朝甚除。田甚蕪。倉甚虛。服文綵。帶利剑。厭飲食。財貨有餘。是謂盜夸。非道也哉。

「蟲師(むしし)」を観てきました。

一種の精霊信仰(アニミズム)の世界、万物に魂がいきいきと宿っている雰囲気を漂わせている明治初期の頃の日本が舞台です。人がもっと人間らしく、自然の一部である傾向が強い頃のイメージは、得体の知れない何かと人が共生していたかもしれないという想像をかきたてられます。

ただ、当時本当にそういった共生が現実的に行われていたかという点、風習などの中には生きていたかもしれませんが、現実の生活は、今と変わらないものであったはずで

話は変わって、最近、白山地域や金沢市などでは世界遺産登録を目指した動きが活発です。

白山地域では、「自然と共存する白山信仰」を強く前面に押し出しているようです。10年ほど「宗教」「信仰」については、どことなく棚にしまっておくことが暗黙の了解で、表面に出すことがタブーでした。

しかし、「宗教」は、専門的な観点を除けば、人が創造し、人が守ってきた、強烈な文化であるとともに、社会教育・倫理教育の基盤です。さらに、現代は占いブームと言われ続け、およそ下火になるどころか、ますますヒートアップしています。

数年前には安部清明の陰陽道ブーム、霊的世界を舞台としたオーラの泉ブーム。

以前バリ島へ旅行に行った時、ガイドが「バリはヒンズー教そのものが観光資源」と言っていました。まさにそのとおりだと思います。



宗教が観光資源であると言っても、その宗教自体ではなく、宗教建築物、宗教が根付いた人々の生活、伝統などさまざまに広がった共通の「雰囲気」です。

以前、町家の保全に関する計画をした時、地元への挨拶として私が話しも一部しましたが、感じたことは以下のようなものでした。

「昔は人の死を知らない家などなく、すべての家で亡くなった人を送り出したが、今ではそれを知らない家が大半を占めており、家としての成熟度が低下しているのではないか。」「人の死を体験した家は、主人がその家を引っ越そうとすると何かしら故障が頻発し、これは実際に我が家で体験している。スクラップにするのではなく、次の主人が住まいすることを伝えたと故障は治まった。」

このままだと何やらアヤシイ感じがしますが、さまざまな体験をしてきた「形」には何かしら積み重なって、魂を宿らせるのではないかという万物神意識が「文化」を育て、守っていく手法なのかもしれません。

近代的環境を享受している私たちは、表面的な「快適さ」を支えてきた影の部分を見ぬふりをし、そして忘れ去ってしまったかのようです。

老子が言う「宮廷はきちんと清められているのに、田畑は荒れ果てており、民衆の穀倉はなほだ貧弱である。」とは、表面だけを飾り立てた現代社会を支えている影の部分が大切なのだと言っているような気がします。 by shio